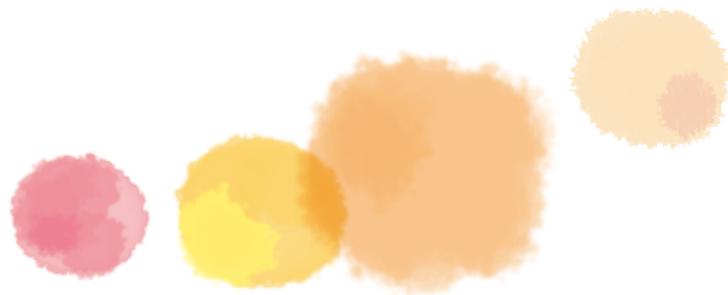


# 子どもを見る目の違いが 子どもの生活を変える

---

東京都立八王子東特別支援学校 渡辺 彩



# 児童の実態

○小学部2年生（自立活動を主とする教育課程）

○障害名 脳性まひ、水頭症

○身体の様子

- ・全介助、座位保持不可。  
経管栄養注入。体温調整が困難。
- ・てんかん発作が1日5回程度。  
覚醒時間が短い。



（わたしの実態）

○教員5年目

1～3年次：準ずる教育課程の児童担任、教科指導中心

昨年～：初めて自立活動を主とする教育課程の児童を担任  
（今年で2年目）

# 昨年の朝の会・天気係り

実施前

1年生時・朝の会

『紐を引っ張り、天気を発表』

している？

している



一見授業が成立しているように見える

- 手が動く
- 目が対象物を向く

- 操作しているようだ
- よく見ているようだ

- 「できた～」と腕や身体を揺らすと笑顔になる

- できて喜んでいるようだ

しかし…

- できる時とできない時がある
- 体調次第
- 積みあがらない感じ…
- 漠然としたモヤモヤ感…



# 子どもを見る目の違い 〈視覚・聴覚〉

## 〈視覚〉

- ドクター 「見えていない」と診断
- 周囲の大人 「見えてそうだよ？」



## 〈聴覚〉

- ベテランA先生  
音楽鑑賞中、常に頭を左右に動かしている様子を見て  
「聞いているね」
- 言語聴覚士 「本当に聞こえているの？  
…反応が不安定でわかりにくい」

# 子どもを見る目の違い 〈物との関わり〉

〈おもちゃを手の近くに提示すると、触るように腕を動かす場面〉

- 私 「やりたい気持ちから、触っていますね」
- お母さん 「たまたま、あたってるんじゃないですか？」
- 私 「いえいえ、彼女の意思ですよ」と言えない…（悩む）

子どもの実態の捉え方（子どもを見る目）の違い・・・  
子どもがわかっていること知りたい、伝えたい。  
みんなが納得できる実態把握が必要。



# 児童の実態把握と仮説表

児童の実態	観察する観点	観察するための手続き	観察の結果から得られるであろう実態の具体化
①視覚が弱い。	光への目や身体の反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗く静かな部屋で観察する。</li> <li>※明るさの異なるライト、室内の照明の ON・OFF での反応を見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討中。</li> </ul>
②聴性反応は、瞬目での反応有り。 特に大きい音や高音に反応有り。 (小さい音や低音への反応は小さい又は無し)	<b>身体反応</b> 様々な音域の楽器(ツリーチャイム-シンバル-ピアノ-大太鼓-小太鼓-落下音(パイプいす)への反応を比較する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静寂-楽器を1つ鳴らす-静寂</li> <li>※楽器の鳴らすタイミングはランダムにする。</li> <li>※音量を大・中・小のそれぞれパターンで鳴らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚醒レベルが低い時、ツリーチャイム等の高音の楽器を近くで鳴らすと、覚醒レベルが上がる。</li> </ul>
⑧提示された物に気づき、身体を動かそうとする。	両腕・顔の動き・全身の緊張	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手にあたることで音が発生する楽器と、音が発生しない楽器で、音の有無を比較する。</li> <li>・静寂-ツリーチャイムを提示する-静寂</li> <li>・静寂-ツリーチャイムを提示する-静寂(耳栓を使用し、音が聞こえないようにする。)</li> <li>※仰臥位(コルセットなし、表情や発声があること等から本人が楽だと思われる状態)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツリーチャイムを提示すると、手を動かして鳴らそうとしている。</li> <li>※音を鳴らそうとして手を動かしているのか、ツリーチャイムの感触に気づいて手を動かそうとしているのか、比較する。</li> </ul>

## 目標

丁寧な実態把握で、児童を知る

→成立した活動へ

# 『視覚』を知る



観察する観点：光への身体反応

観察するための手続き：

①暗く静かな部屋で観察し比較する。

- ・明るさの異なる光源を提示した時の反応
- ・室内の消灯・点灯時の反応

②校庭で日陰から日向への移動を観察し、比較する。



結果（比較してわかったこと）

強い光刺激への反応が見られない。

考察

見えていない可能性が高い。

# 『聴覚』を知る

観察する観点：身体反応

観察するための手続き：介入なし—楽器を鳴らす—介入なし  
(ABAデザイン)

幅広い音域の楽器を1つ鳴らした後の様子を、定点カメラによる動画撮影、OAKcamで観察・比較。

使用する楽器：ツリーチャイム、シンバル、ピアノ、大太鼓、  
小太鼓、パイプ椅子の落下音

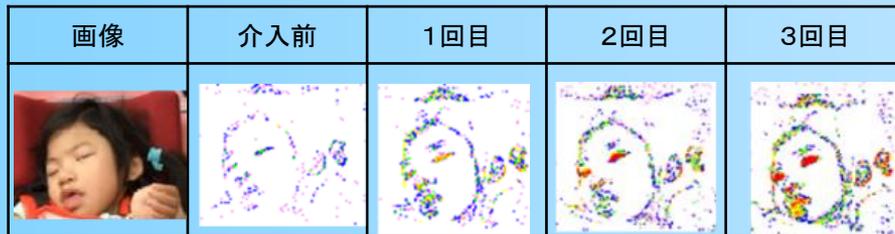
※楽器を鳴らすタイミングや音量は、一定にせずランダムに鳴らした。



## 『聴覚』を知る

## 結果（比較してわかったこと）

- 覚醒時は、設定した全ての音提示のタイミングで瞬目反応があった。
- 目を細めている時は、音に目を大きく開けることがあった。しばらく目を閉じている時は無反応であった。
- 眠っているように目を閉じている時に、ツリーチャイムを続けて3回鳴らすと、徐々に目を開けた。



## 考察

- 全ての音に反応があったことから、低音から高音まで、聞こえていると考えられる。
- 覚醒レベルが低い時、ツリーチャイム等の高音の楽器を近くで鳴らすと、覚醒レベルが上がると思われる。

## 『物との関わり』を知る

## 提示物に気づき、身体を動かそうとするか

- より反応のある高音の「ツリーチャイム」を使用する。
- 仰臥位の注入中に覚醒し、身体を動かすことが多かった  
→その時間を活用し、物に手が当たって音がしたらどうなるかを観察することとした
- 左右の手の変化を観察し、左手により変化があった。

『ツリーチャイムとの関わり』を観察  
定点カメラによる動画撮影



結果（比較してわかったこと）

# 観察① ツリーチャイムの有無の変化

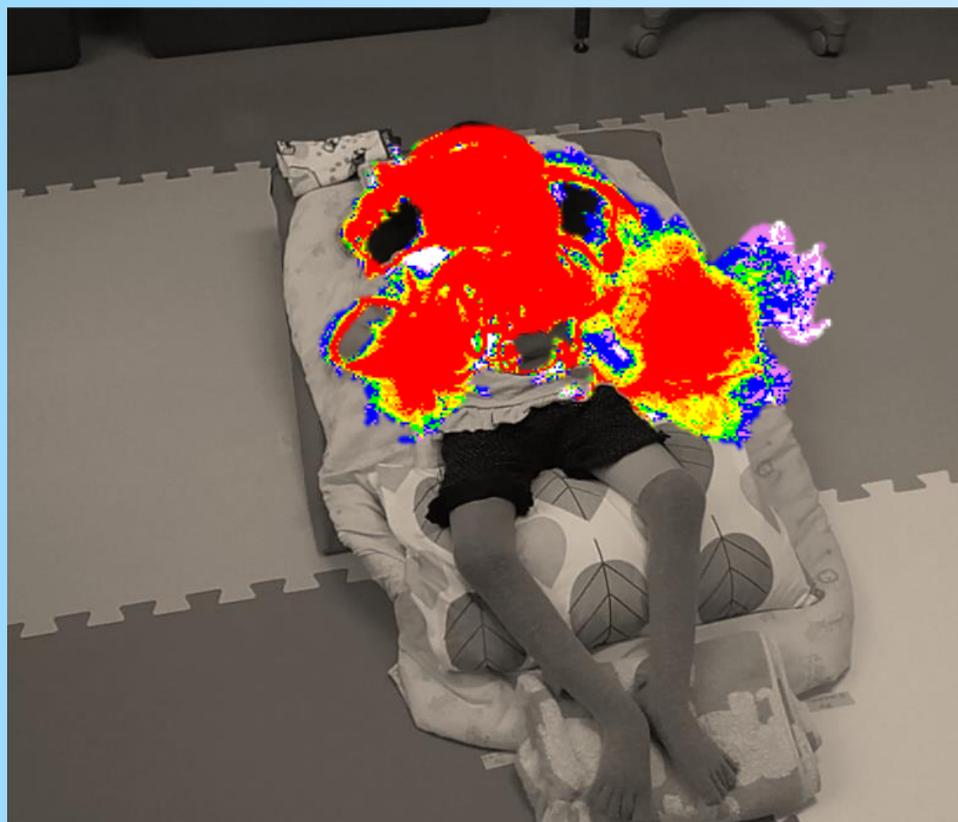
学習の様子



結果（比較してわかったこと）

## 観察① ツリーチャイムの有無の変化

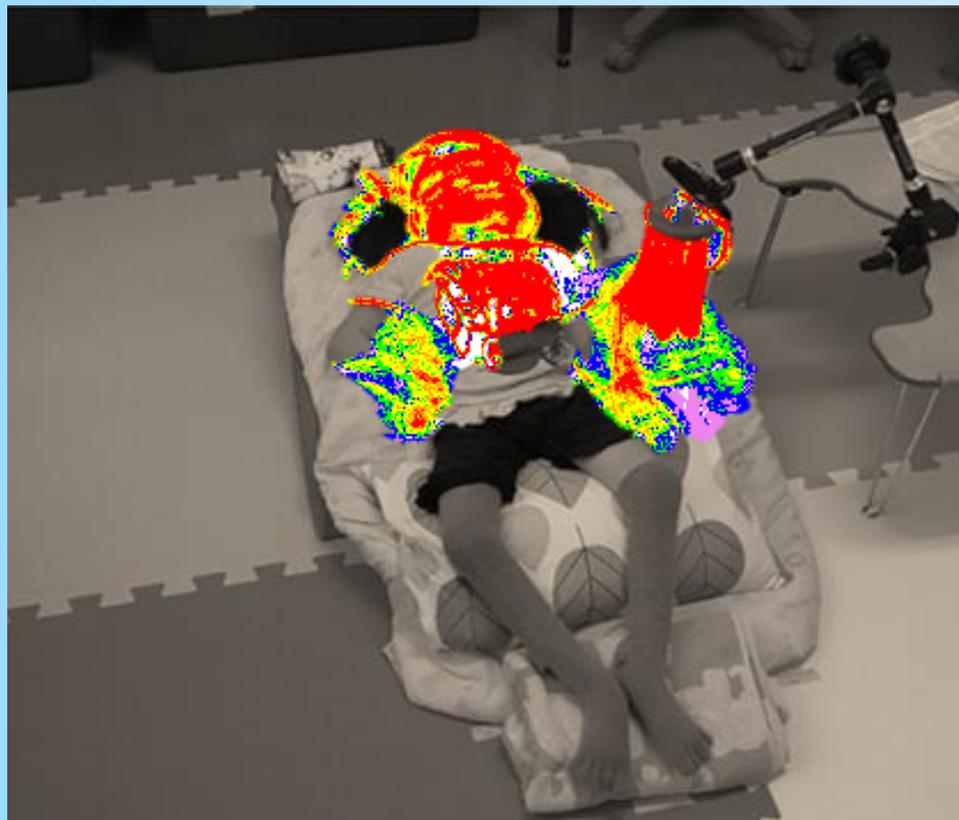
ツリーチャイム無し



結果（比較してわかったこと）

## 観察① ツリーチャイムの有無の変化

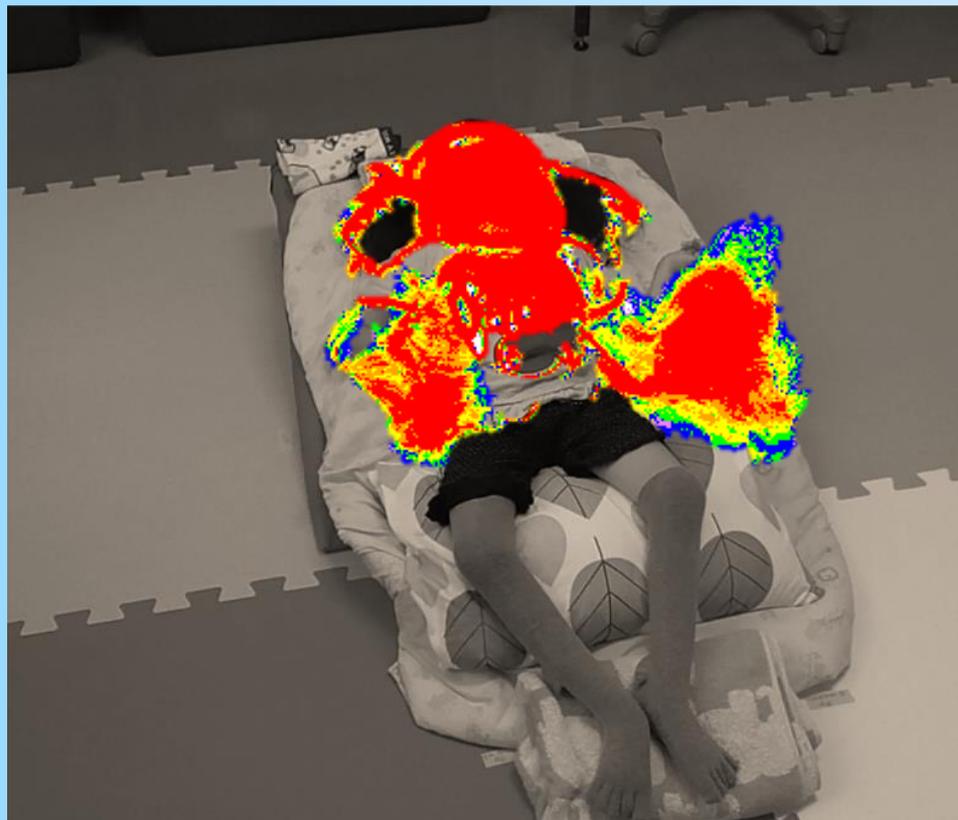
ツリーチャイム提示



結果（比較してわかったこと）

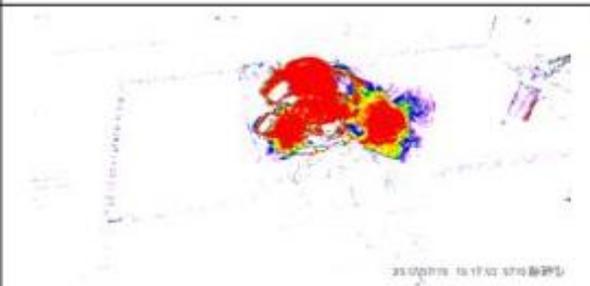
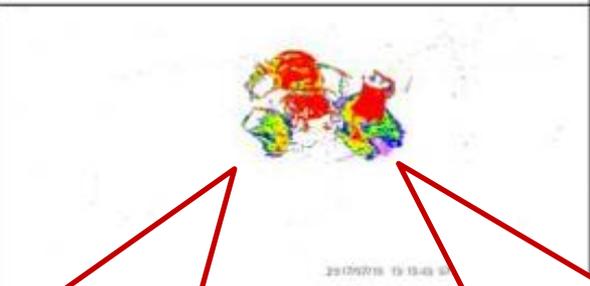
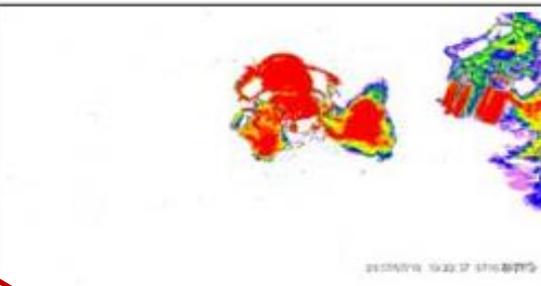
## 観察① ツリーチャイムの有無の変化

ツリーチャイム無し



# 観察① ツリーチャイムの有無の変化

- 1 ツリーチャイムを提示すると、ツリーチャイムの周辺に動きが集まる。

ツリーチャイム無し	ツリーチャイム提示	ツリーチャイム無し
		

身体の動きが少ない。

ツリーチャイム周辺に動きが集まっている。

## 考察

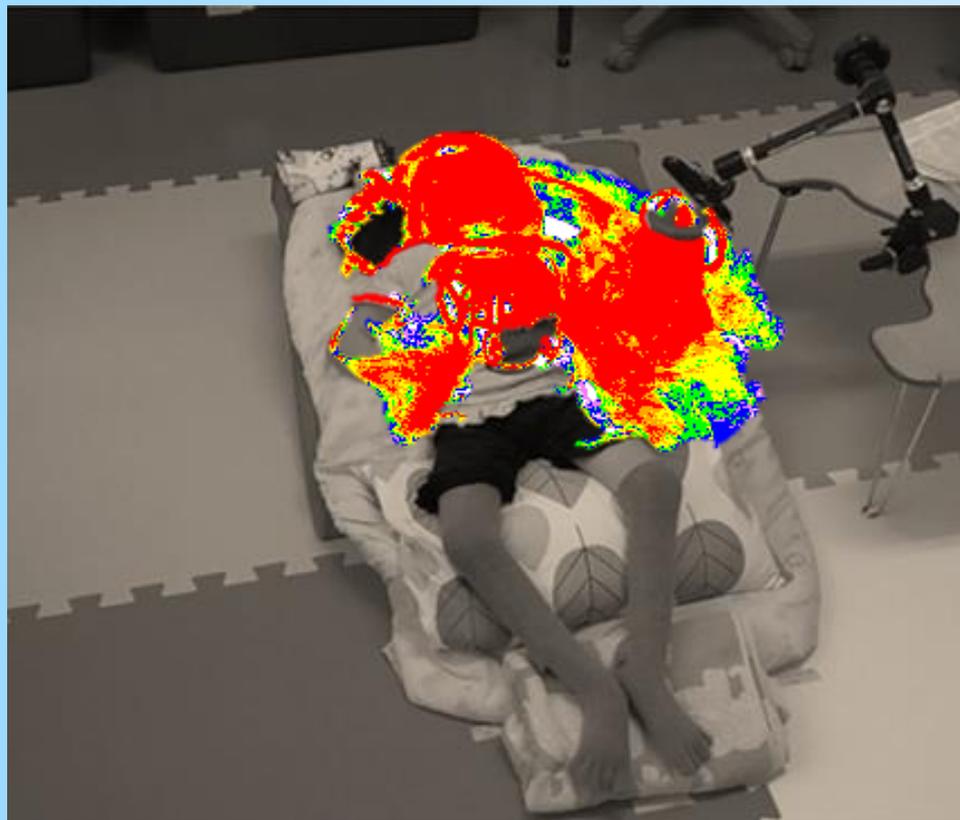
ツリーチャイムに気づいて、身体を動かしている。



結果（比較してわかったこと）

## 観察② ツリーチャイムの音の有無の変化

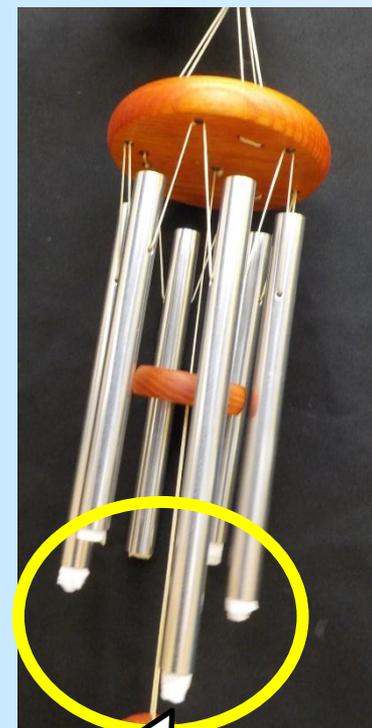
通常のツリーチャイム提示



結果（比較してわかったこと）

## 観察② ツリーチャイムの音の有無の変化

音を出さないツリーチャイム提示

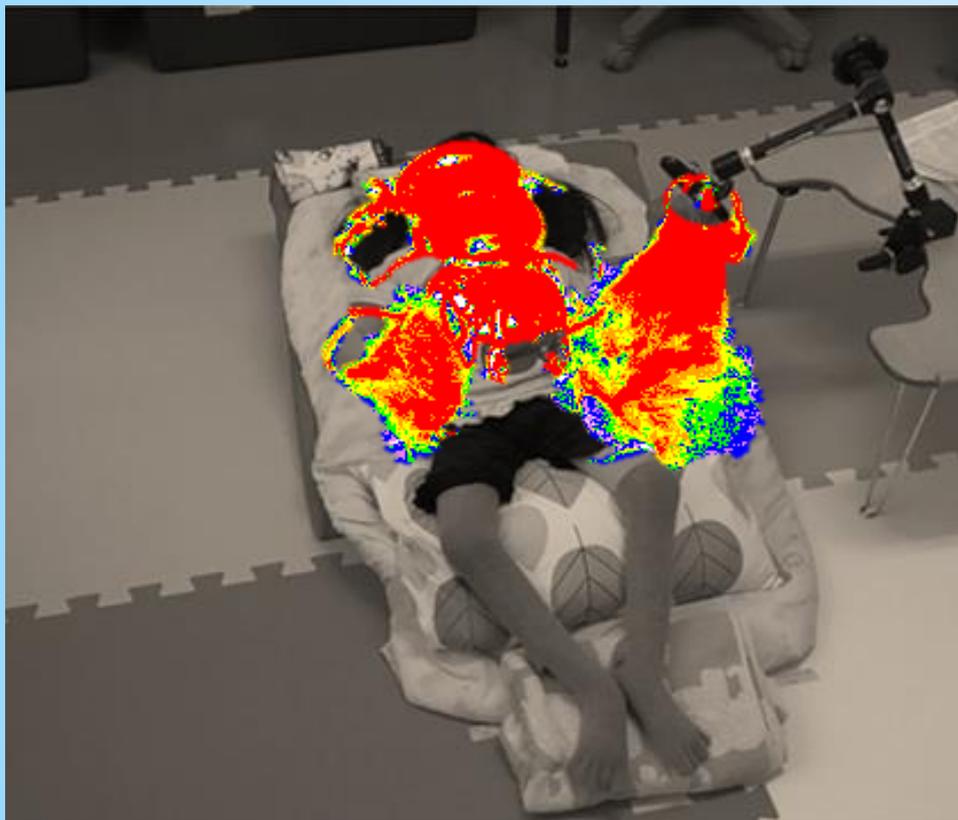


詰め物をした  
ツリーチャイム

結果（比較してわかったこと）

## 観察② ツリーチャイムの音の有無の変化

通常のツリーチャイム提示



## 観察② ツリーチャイムの音の有無の変化

- 2 音を出さないツリーチャイムでは、通常のツリーチャイムに比べて、動きが減少する。

ツリーチャイム提示	音を出さないツリーチャイム提示	ツリーチャイム提示
		

腕の動きが減少する。

考察

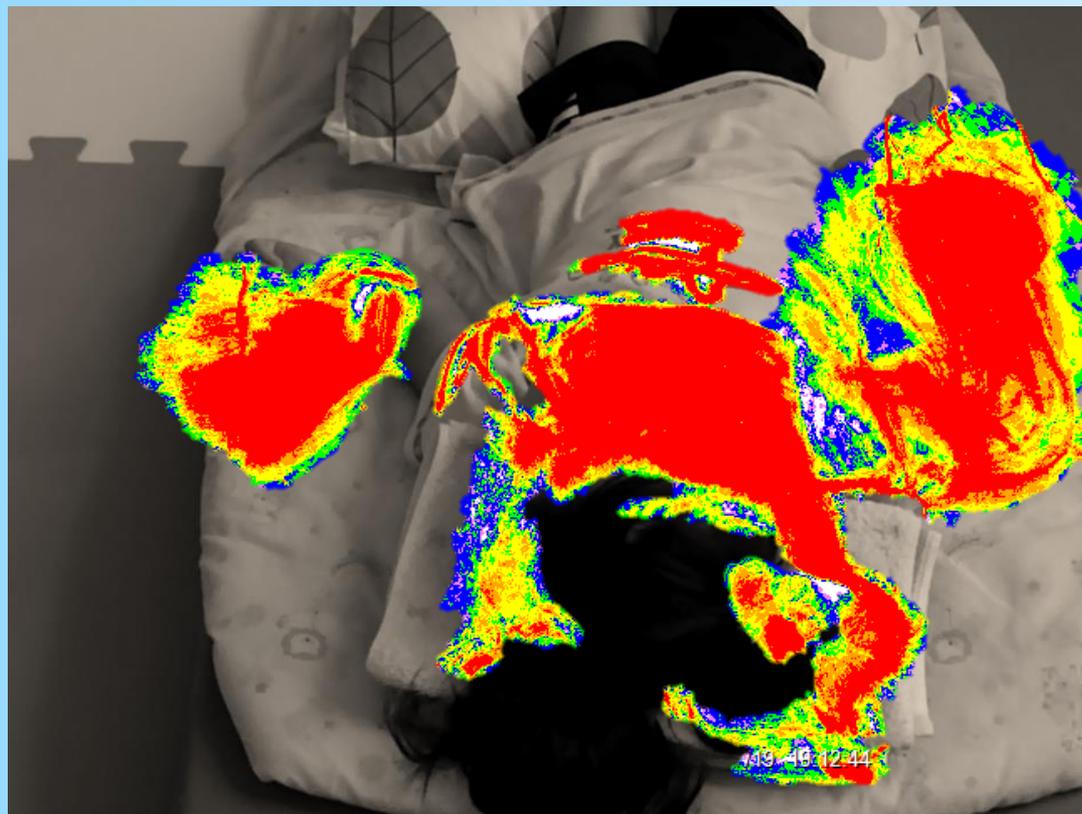
音が無いと動かさない。



結果（比較してわかったこと）

## 観察③ ツリーチャイムを撤去した時の反応

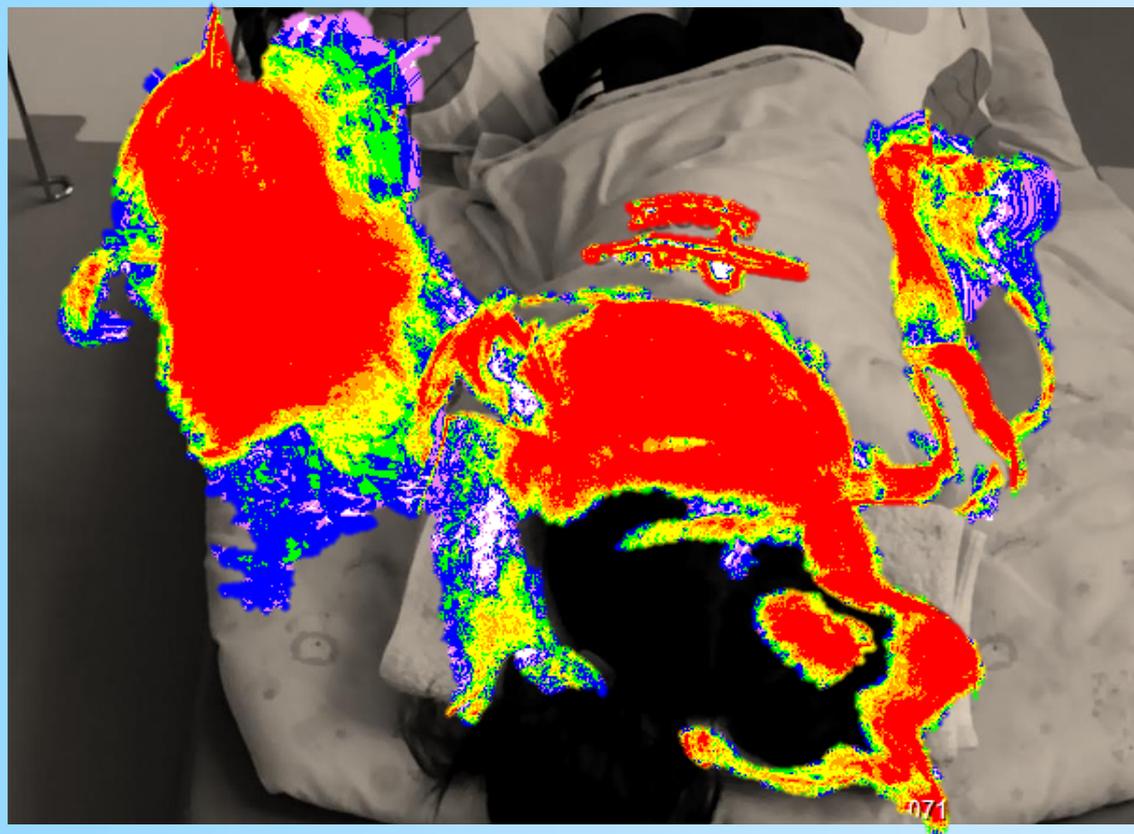
ツリーチャイムに触る前



結果（比較してわかったこと）

## 観察③ ツリーチャイムを撤去した時の反応

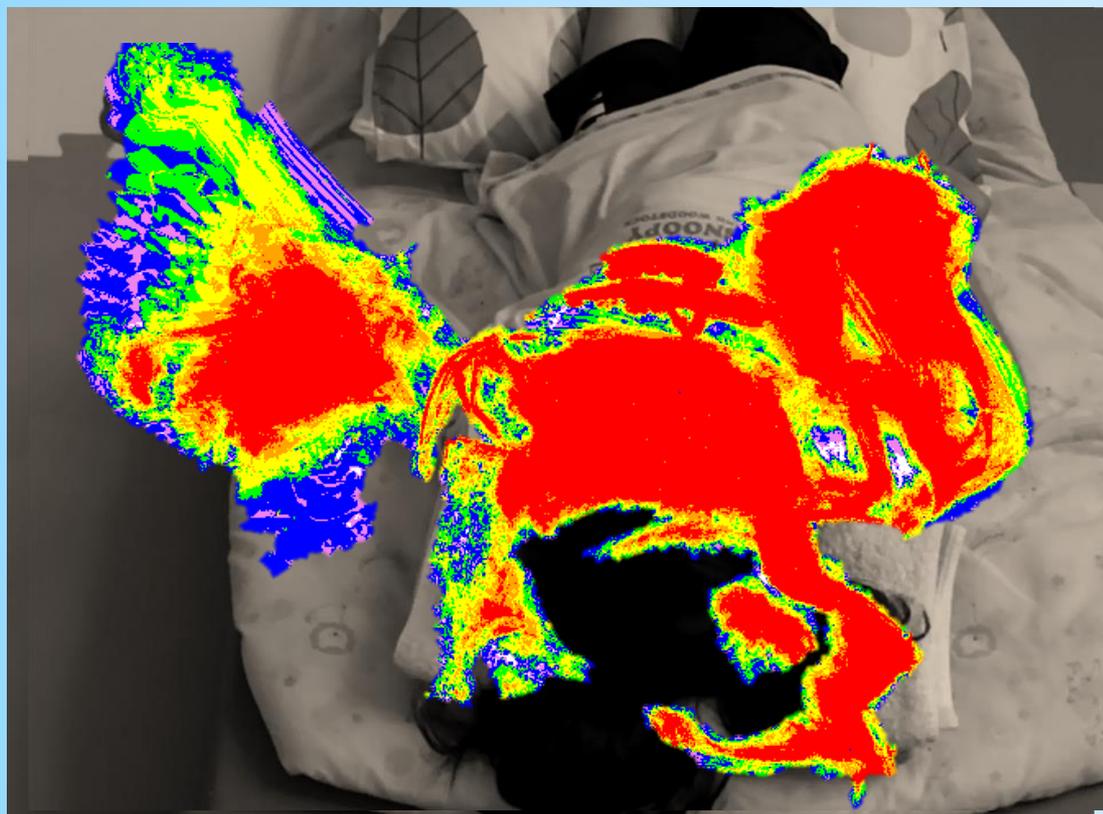
ツリーチャイム提示



結果（比較してわかったこと）

## 観察③ ツリーチャイムを撤去した時の反応

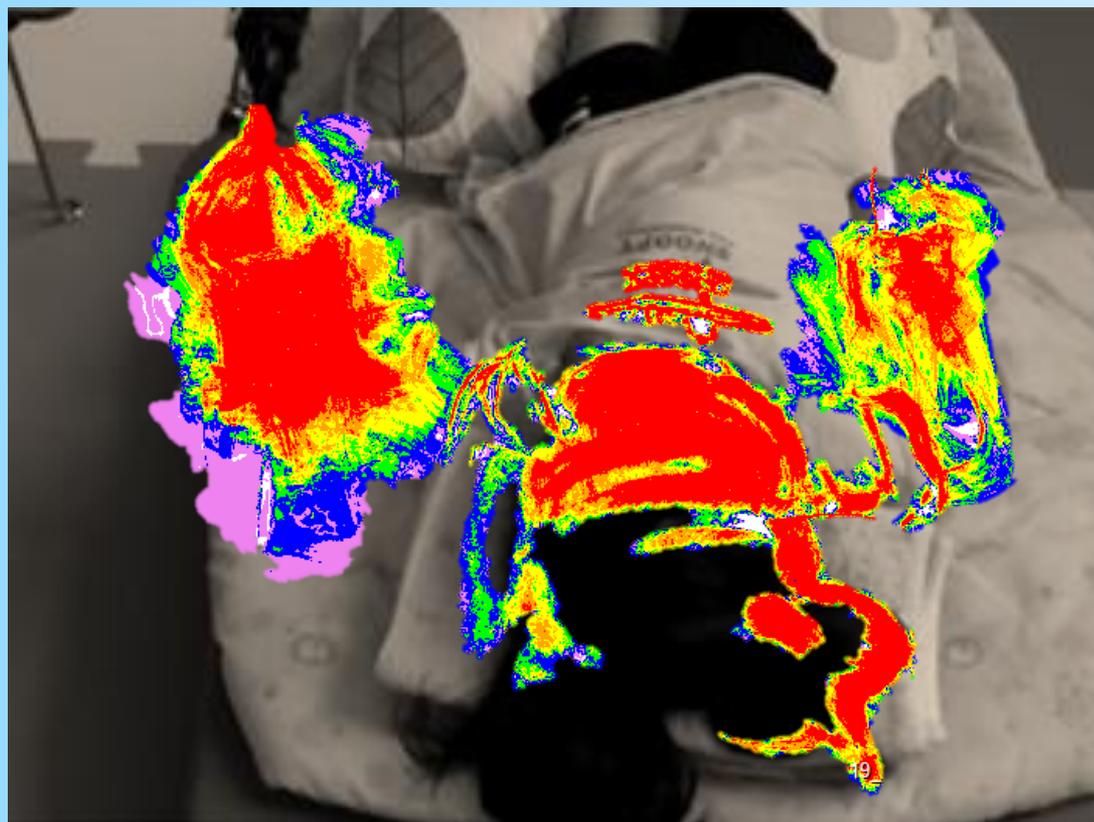
ツリーチャイムを撤去後



結果（比較してわかったこと）

## 観察③ ツリーチャイムを撤去した時の反応

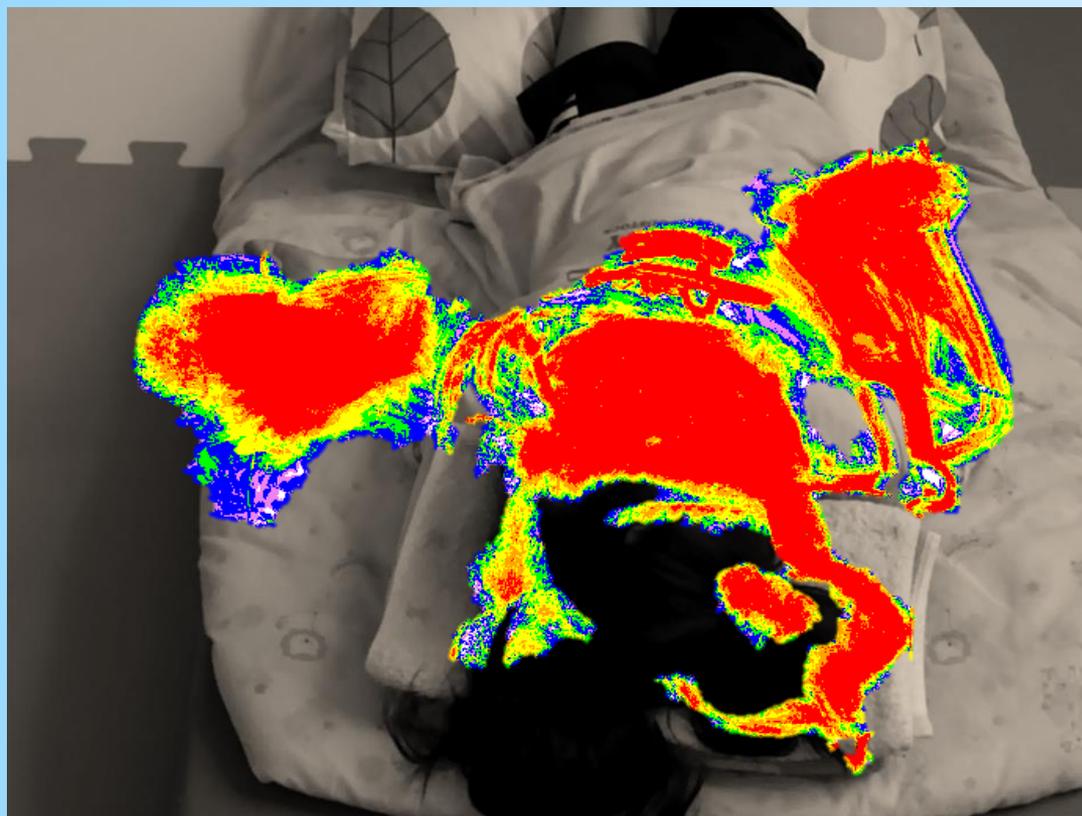
音をださないツリーチャイム提示



結果（比較してわかったこと）

## 観察③ ツリーチャイムを撤去した時の反応

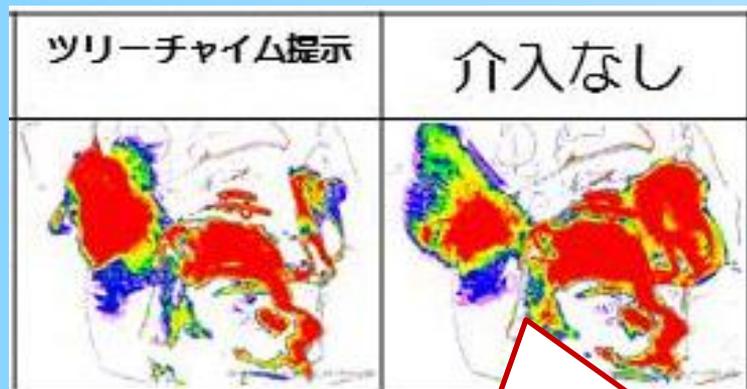
音を出さないツリーチャイムを撤去後



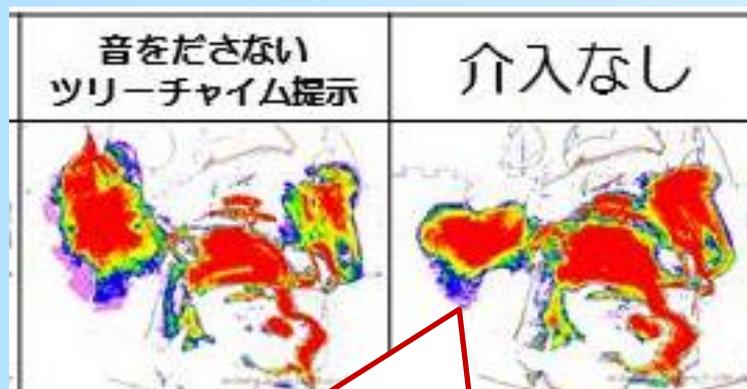
結果（比較してわかったこと）

## 観察③ ツリーチャイムを撤去した時の反応

3 ツリーチャイムを撤去すると左肘を伸展させることが多い。



左腕の動きの範囲が大きく、  
方向が異なる。



左腕の動きの範囲が狭い。

### 考察

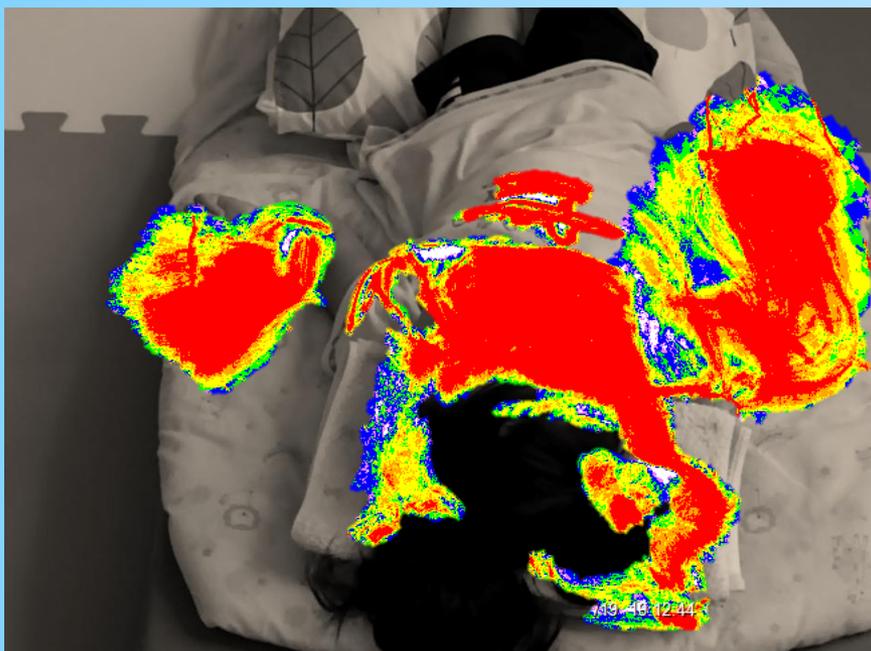
ツリーチャイム撤去後、左肘を伸展させ、  
探索行動がみられる。



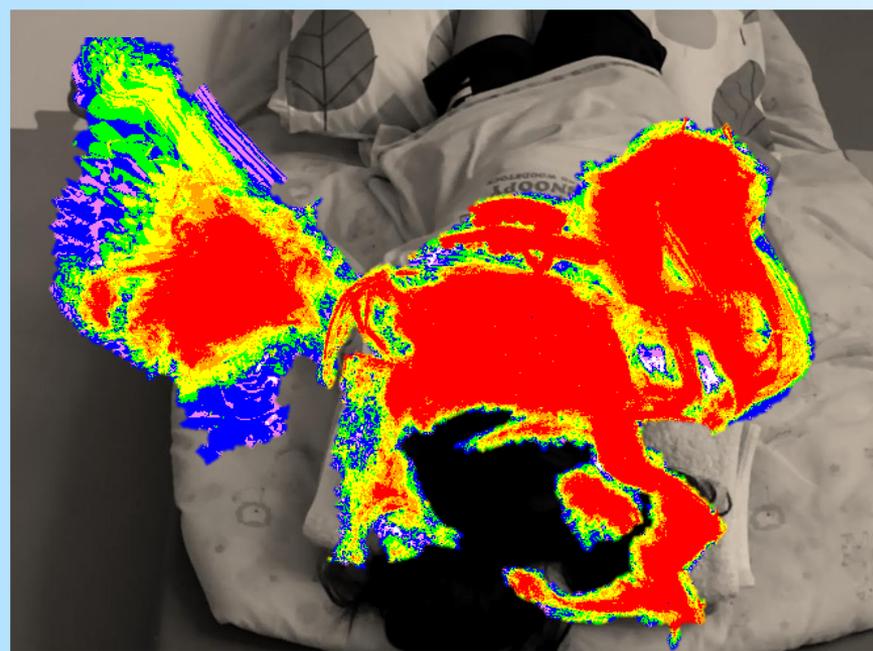
結果（比較してわかったこと）

## 観察③ ツリーチャイムを撤去した時の反応

ツリーチャイムに触る前



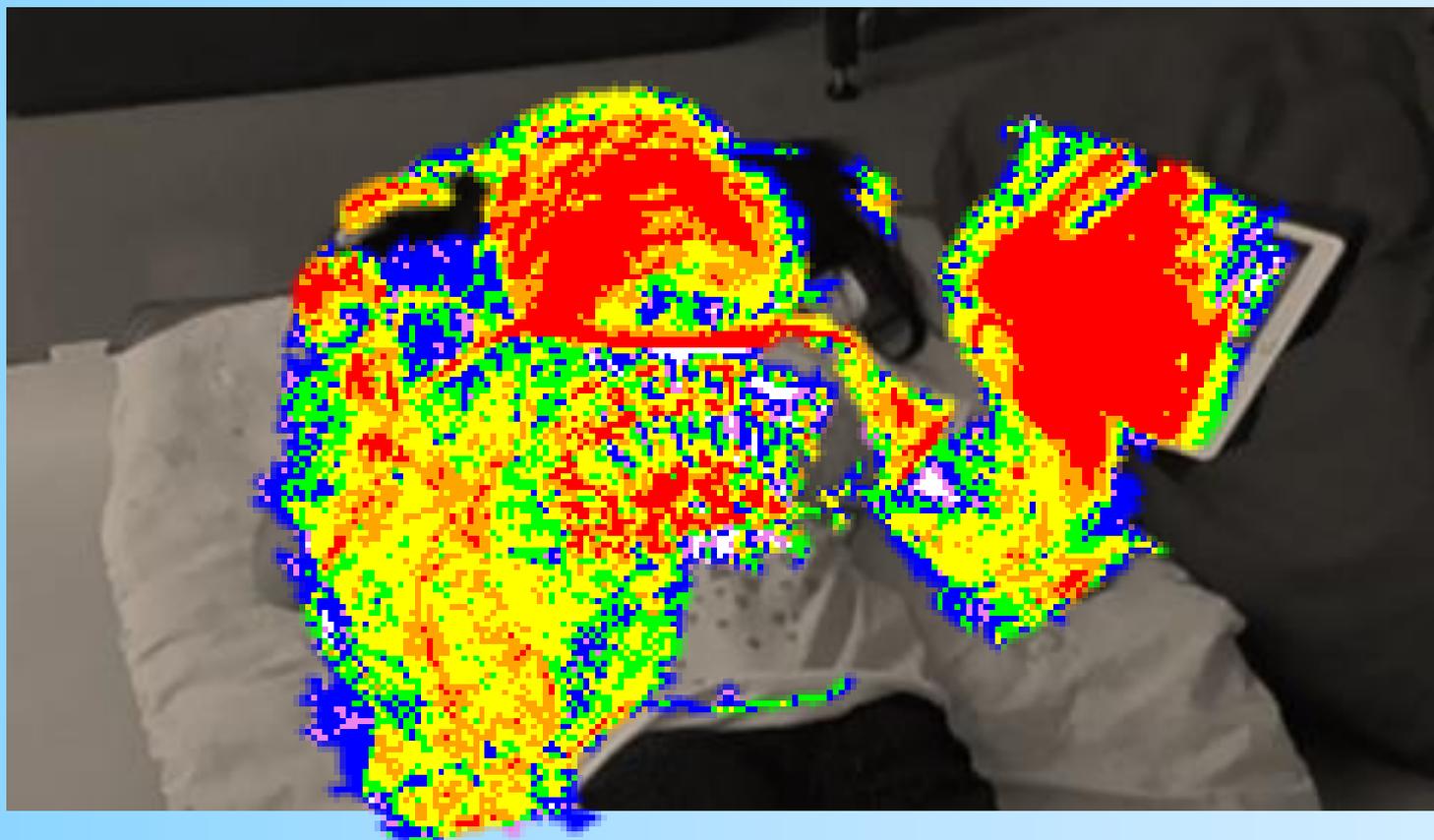
ツリーチャイムを撤去後



結果（比較してわかったこと）

## 観察④ iPadでも探索行動はあるのか

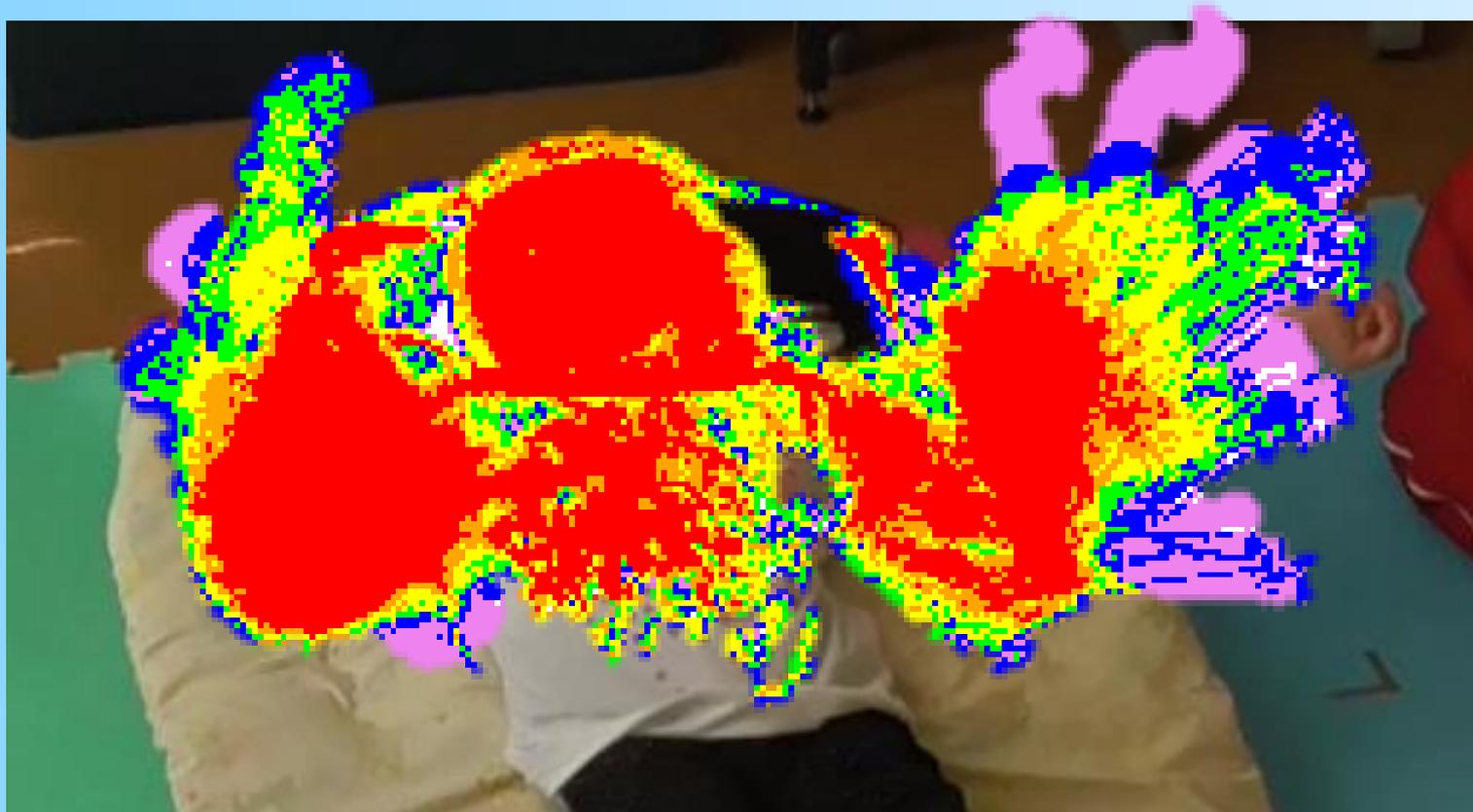
iPad提示



結果（比較してわかったこと）

## 観察④ iPadでも探索行動はあるのか

iPad撤去



結果（比較してわかったこと）

## 観察④ iPadでも探索行動はあるのか



使用したアプリ

「Magic Zither」

「カラフル風船」

「Cause and Effect Sensory

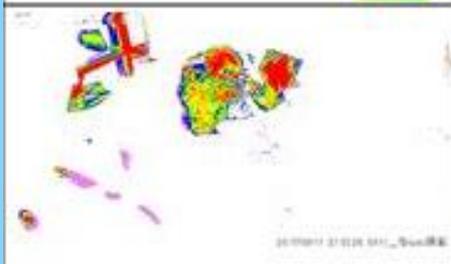
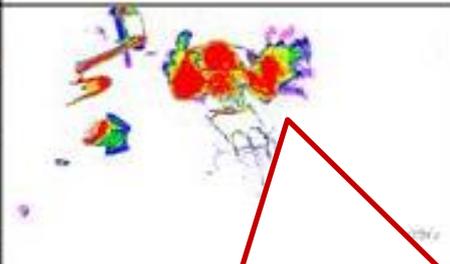
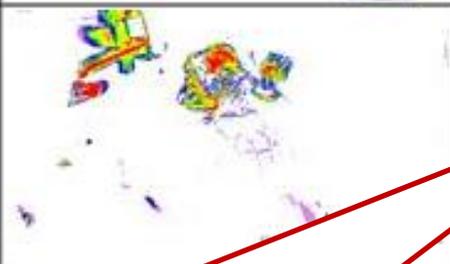
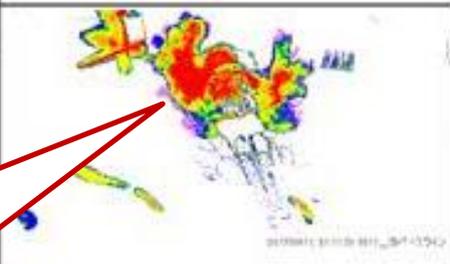
Light Box」の「Love」、

「Grimbles」



※2分毎のOAK画像

4 iPadを撤去すると左肘を伸展させることが多い。

iPad提示 	介入なし	iPad提示 	介入なし
			

iPad撤去後、両腕の動きが増え、動く範囲が広がる。

考察

肘を伸ばしてiPadを探している。

# 結果のまとめ

## (対象児童を理解するための視点)

- 強い光刺激への反応が見られない。
- 聞こえた時と聞こえない時は、目の様子が違う。  
(瞬目、目がゆっくりと開く)
- 物と関わっている時とそうでない時は、身体の動きが変わる。  
(規則的な腕の動きが提示物の方へ集まり、全身の動きが減少する)
- 触れていた物がなくなると、身体の動きが変わる。  
(左肘の伸展)  
→ 提示物がないことに、気づいて探す様子が見られる。

# 今後着目していきたいこと

複数種類の発声がある

身体全体の力が入る様子がある

呼吸の変化し、それに伴い発声がある

アプリによってiPadに触れている時間が異なる



今後観察する有効な視点となる可能性があると考えられる。  
(状況から意思を推測できると思われる面もあり、今後の仮説となるか検討していきたい。)



# わたしの『子どもを見る目』の変化

- 複数の刺激を同時に提示し、支援者が意図する刺激に反応したと考える
- 複数の刺激があると、何に反応しているのかわからないことを知る
- 児童の実態に、疑問を感じる
- 丁寧な実態把握の重要性を理解した
- 観察手法を学び、実態把握や評価の観点を得つつある

今回研究を行ったなかで、感覚的な児童の実態把握に終わらず、刺激一つ一つに対する反応を見ることを行ってきた。

その中で、実態把握の視点やどこに着目してどのように評価したら良いか、という評価の観点を得た。

# 保護者の『子どもを見る目』の変化

1年4月

好きなことをみつけて欲しい



ツリーチャイムやおもちゃに触れている様子を見てもらう。

?

たまたまあたってるのでは？



2年4月

『魔法の言葉』で研究スタート

2年12月

iPadに触れる活動を見てもらう。

アプリによって手の動きが変わるのですね





## 今後の課題

- 1、実態把握で確認できたことを、場面や人が変わっても、活動を充実させていくことにつなげる。  
→違う担任が活動する場面を作っている
- 2、今年度の研究を通して感じた、新たな疑問や「児童の実態と仮説表」にある未検証の実態について、検証・分析する。
- 3、今回は仰臥位の姿勢で確認を行ったが、身体の動きの視点から、今後は前方で手を使う活動にも取り組む。

**実態把握で確認できたことを生かし、  
子どもの生活を豊かにしていく**

